

平成28年10月24日

地域経済産業調査（平成28年7-9月期）結果

〈全体の動向〉

今期（7-9月期）の近畿経済は、一部に弱い動きがみられるものの、緩やかに改善している。

生産は、電子部品・デバイスが好調、車載用の蓄電池や季節家電も堅調に推移するものの、フラットパネル・ディスプレイ製造装置等が減少しており、鉄鋼も低調に推移するなど、総じてみれば横ばいとなっている。

設備投資は、製造業では、設備の維持・更新を中心に、一部では生産能力増強投資もみられる。また、非製造業では、物流施設への投資や需要拡大のための店舗改装、訪日外国人の増加に対応する投資がみられる。

雇用情勢は、小売業やサービス関連を中心に人手不足が続いており、また、有資格者や技術者の人材獲得競争が激化しているとの声も聞かれる。

個人消費は、百貨店が衣料品の不振などから弱い動きとなっているが、スーパーは飲食料品を中心におおむね堅調であり、コンビニは好調。家電は、気温の上昇とともに季節家電が伸長したものの、総じてみれば弱含んでいる。乗用車は、軽自動車の回復が遅れているが、普通車は新型車効果もあり前年を上回っている。

〈個別の動向〉

- （1）生産：横ばい。
- （2）設備投資：持ち直している。
- （3）雇用情勢：改善している。
- （4）個人消費：改善の動きに足踏みがみられる。

〈これまでの基調判断の推移〉

	平成27年7-9月	平成27年10-12月	平成28年1-3月	平成28年4-6月	平成28年7-9月
全国	→	→	→	→	→
	一部に弱い動きがみられるが、緩やかに改善している	一部に弱い動きがみられるものの、緩やかに改善している	一部に弱い動きがみられるものの、緩やかに改善している	一部に弱い動きがみられるものの、緩やかに改善している	一部に弱い動きがみられるものの、緩やかに改善している
近畿	↗	↗	→	→	→
	緩やかに改善しているものの、一部に弱い動きがみられる	一部に弱い動きがみられるものの、緩やかに改善している	一部に弱い動きがみられるものの、緩やかに改善している	一部に弱い動きがみられるものの、緩やかに改善している	一部に弱い動きがみられるものの、緩やかに改善している

（参考）今回、本調査の対象機関（98）、実施期間（平成28年9月5日～9月28日）

（本件のお問い合わせ先）

近畿経済産業局総務企画部調査課長 奥田

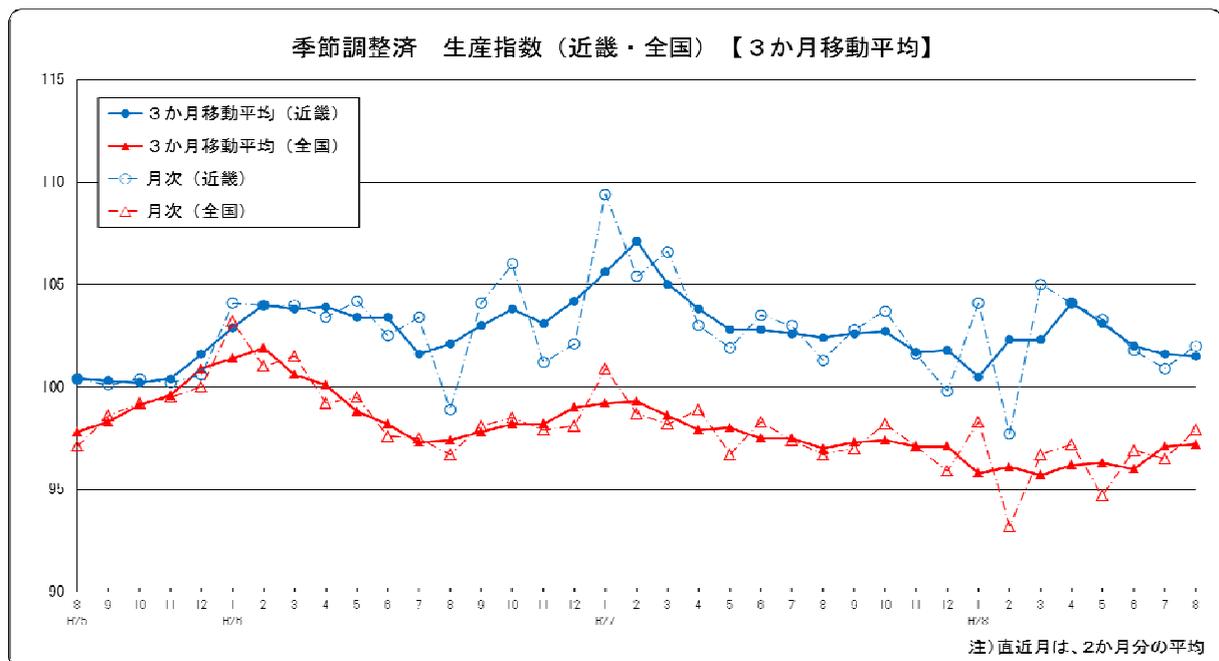
担当：中川、加藤 電話：06-6966-6004

生産 ～横ばい～

電子部品・デバイスは、スマートフォンの高機能化により好調。電気機械は、車載用をはじめとする蓄電池や季節家電が堅調に推移。輸送機械は、自動車部品等が増加。はん用・生産用・業務用機械は、フラットパネル・ディスプレイ製造装置等が減少。鉄鋼は、世界的な需給緩和が続いていることから、低調に推移。

【企業の生の声】

- スマートフォンの高機能化に支えられ、部品の生産数量が増加。高水準で推移している。【電子部品・デバイス】
- 車載用の蓄電池は、継続して高水準。生産はフル稼働状態で、休日出勤や残業も発生している。【電気機器】
- 国内向けエアコンは、関東以北は気温が上がらず期待したほどではなかったが、関西以西は猛暑のため好調だった。【電気機器】
- 海外向け自動車用の部品が極めて好調。休日出勤や昼夜交代勤務により何とか対応している。【輸送用機器】（中小）
- インターネットビジネスを手がける企業にピッキングシステム等を納入する部門の受注が好調であり、短期的な見通しは明るい。【業務用機械器具】
- ×主力のフラットパネルディスプレイ事業は、現在、受注の端境期であり、生産していない。【生産用機械器具】（中小）
- ×内需は好調であるが、外需はどのエリアも落ち込んでおり、特に中国が大きく落ち込んでいる。【生産用機械器具】
- ×生産は悪いまま横ばい。為替が円高傾向なので、収益性が悪い。流通在庫もだぶついている。【生産用機械器具】（中小）
- ×昨年度に比べて減少傾向。中国での供給過剰問題の影響等により、厳しい状況が続いている。【鉄鋼】



(注) 近畿・全国：平成22年基準（平成22年＝100）

データ出所：近畿経済産業局「近畿地域鉱工業生産動向」

設備投資 ～持ち直している～

製造業では、設備の維持・更新投資を中心に、一部では生産能力増強投資もみられ、また、引き続き、地産地消を目的として海外への投資も行われている。非製造業では、物流施設への投資や需要拡大のための店舗改装、訪日外国人の増加に対応する投資がみられる。

【企業の生の声】

- 国内工場の生産ラインを増設するほか、中国に建設中の新工場は、計画より前倒しで実施。【電気機器】
- 28年度の設備投資額は増加する見通し。半導体部品関連など伸びている分野を重点的に強化する計画。【電子部品・デバイス】
- 自動倉庫を建設する予定であり、今期中(10～12月頃)に着工するよう進めている。【その他卸売業】(中小)
- 今年度は昨年度より設備投資額を増やす予定。既存店の全面改装を進めていく。新店よりも既存店改装の方が即効性があり、客数も2割ぐらゐの増加が見込める。【各種小売業】
- 訪日外国人の増加による宿泊施設不足への対応として、従業員用の部屋を改装して客室を増やし、シングル部屋をツインに変更するというリノベーションを行う。【宿泊業】
- △国内は、計画通り設備の更新を中心に行っていく。プラントの大型補修は当面無い。【鉄鋼】
- △国内は、研究棟や福利厚生棟など老朽化した施設の更新で、目新しいものはない。海外は、研究開発部門や生産ラインへの投資を実施。【生産用機械器具】
- ×28年度の設備投資計画を下方修正したが、今後も地産地消を目指し海外での投資は増加する。【窯業土石】
- ×補助金に採択されなかったため、28年度に予定していた設備投資は見送り。29年度に、再度、補助金の申請を行う予定。【生産用機械器具】(中小)

全国企業短期経済観測調査

(前年度(前年同期)比:%)

前年度 (前年同期)比	近 畿						全 国					
	2015年度			2016年度 (計画)			2015年度			2016年度 (計画)		
	上期	下期	7.8	12.3	4.3	5.0	4.2	5.6	1.7	8.3	▲ 3.4	
全産業	▲ 4.0	▲ 7.0	▲ 1.5	7.8	12.3	4.3	5.0	4.2	5.6	1.7	8.3	▲ 3.4
製造業	5.5	10.1	1.9	16.7	19.3	14.4	9.1	7.1	10.7	6.1	13.8	0.3
大企業	6.1	12.5	1.0	18.3	18.0	18.5	8.4	9.9	7.3	12.7	18.9	7.8
中堅企業	▲ 0.8	▲ 8.4	5.4	13.7	33.5	▲ 0.3	9.3	9.4	9.1	4.4	7.6	1.8
中小企業	8.3	3.3	11.6	▲ 11.2	18.4	▲ 29.3	11.5	▲ 4.6	24.9	▲ 15.3	▲ 0.2	▲ 24.8
非製造業	▲ 9.5	▲ 16.5	▲ 3.5	1.9	7.2	▲ 2.0	2.9	2.7	3.1	▲ 0.6	5.5	▲ 5.3
大企業	▲ 10.8	▲ 18.6	▲ 4.0	1.0	4.9	▲ 2.0	1.0	▲ 1.4	2.9	2.9	8.5	▲ 1.2
中堅企業	▲ 5.3	2.7	▲ 10.0	21.0	33.5	12.8	8.3	5.8	10.2	▲ 8.3	1.3	▲ 15.3
中小企業	20.2	▲ 2.2	46.5	▲ 29.3	▲ 4.1	▲ 49.0	5.2	14.2	▲ 1.9	▲ 6.0	▲ 0.1	▲ 11.4

データ出所: 日本銀行(含む 土地投資額)

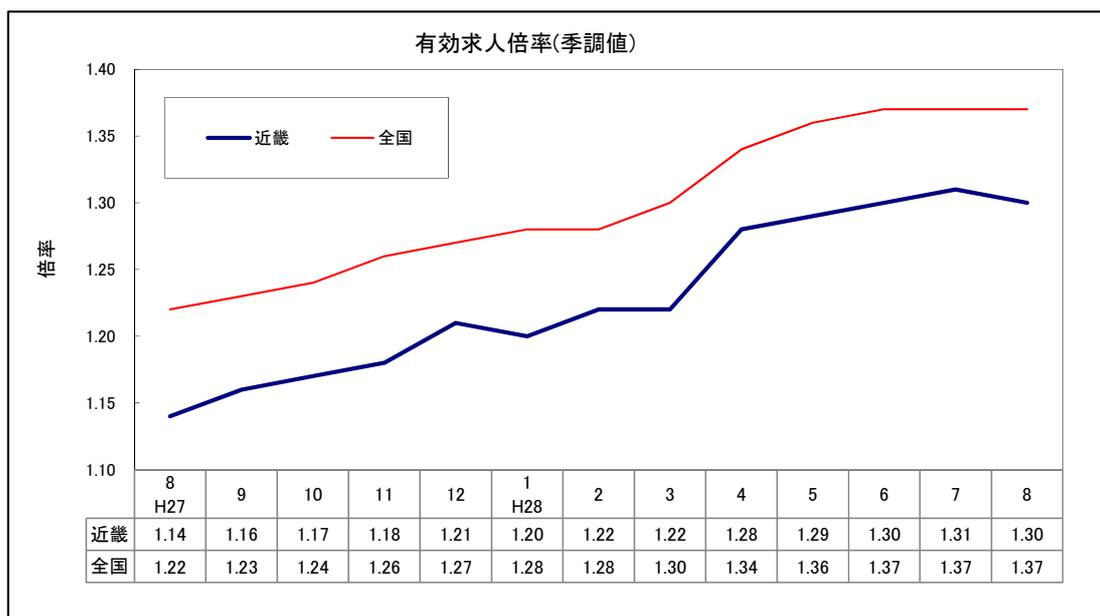
(大企業: 資本金10億円以上、中堅企業: 同1億円～10億円未満、中小企業: 同2千万円～1億円未満) 2016/10/3公表

雇用情勢 ～改善している～

依然として人手不足が続いている。小売業やサービス関連を中心に人手の確保が困難であり、また有資格者や技術者などの人材獲得競争が激化しているとの声も聞かれる。新規採用は、毎年継続して一定の採用人数を確保する意向が強いが、内定辞退等により確保が困難との声もある。また残業の抑制による長時間労働の解消、女性や外国人活用への取り組みがみられる。

【企業の生の声】

- ・アルバイト不足が続いている。対策として土日や夕方の時給アップなど待遇改善を行っている。【機械器具小売業】
- ・清掃や洗い場など、裏方の従業員が不足。60～70代と高齢化し、若い人は募集しても集まらない。【宿泊業】（中小）
- ・ソフト系技術者は常に不足気味で、他業種と奪い合いになっている。【情報通信機器】
- ・国内工場の現場技術職が慢性的に不足。繁忙期は大手メーカーが派遣技術職を独占してしまう。【化学】（中小）
- ・電気主任技術者の資格を持つ社員が少ないため、60歳以上の資格を持つ人に定期昇給を続けることを条件に働き続けてもらっている。【電子部品・デバイス】（中小）
- ・従業員の年齢バランスの維持を目的として、毎年同程度の採用を行っている。【金属製品】（中小）
- ・内定辞退を見越して、採用予定の倍の人数に内定を出している。辞退率は年々上昇している。【生活関連サービス業】
- ・残業時間の削減を目指し、事務系職員の「超勤削減キャンペーン」を実施。2-3時間／人の削減が出来た。【鉄鋼】
- ・女性社員全員による女性社員が働きやすい環境作りの研修や、管理職候補の女性を集めての研修も行っている。【各種小売業】
- ・採用に外国人枠を設けており、毎年1～2名を採用。【電気機器】（中小）



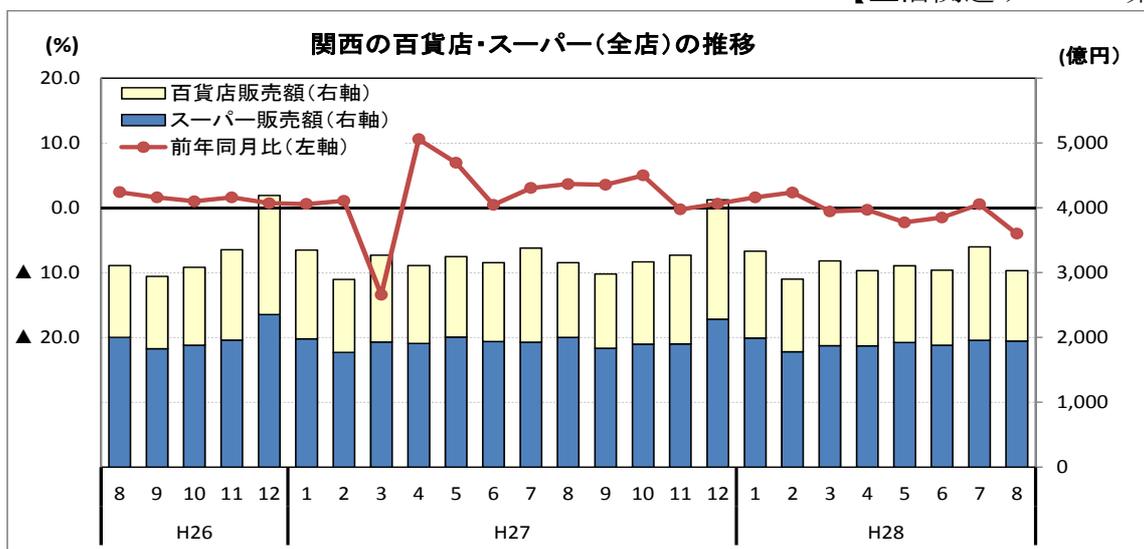
データ出所：厚生労働省「一般職業紹介状況」

個人消費 ～改善の動きに足踏みがみられる～

百貨店は、残暑により秋物が苦戦するなど衣料品の不振が続いていることなどから、弱い動きとなっている。スーパーは、惣菜等が好調である飲食料品を中心におおむね堅調。コンビニは好調。家電は、気温の上昇とともに季節家電が伸長したものの、総じてみれば弱含んでいる。乗用車は、軽自動車の回復が遅れているが、普通車は新型車効果もあり前年を上回っている。旅行は、引き続き政情不安等から海外が低調。外国人観光客による消費については、高額品の購入が減少しているが、化粧品が好調との声が聞かれる。

【企業の生の声】

- 天候も良く気温も上昇しているので業況は上向き。晴れの日が多いので入店客数も増加。人気のカウンターコーヒーに、ドーナツやおでん、肉まんなど一品が加わり客単価も上昇している。【各種小売業】
- 7-9月期の稼働率は80%の見込み（スイートルーム等の特別な客室を除くと、ほぼ100%）。外国人宿泊客が増加している。【宿泊業】
- △免税対象売上は、依然化粧品が好調で、去年の売上の2倍となっているが、宝飾品・時計・特選衣料雑貨など高額品は不調で半減。【各種小売業】
- △ディスカウント店が増えているので、日配品（牛乳や卵など）や日用品（洗剤など）は競争が厳しい。すぐに食べられる総菜や、パン、カット野菜などは良い。【各種小売業】
- △軽自動車販売は、足下では少し良くなっているかもしれないが、今年度後半も前半と同じような状況が続くだろう。【その他事業サービス業】
- ×猛暑が続いたことにより、晩夏物や秋物衣料品などの動きが鈍かった。【各種小売業】
- ×エアコンは7月第1週は売れたものの、その後動きが止まってしまった。テレビは4K機種単体の価格が下落してきたことに加え、オリンピック需要が限定的であったことから数量も伸び悩んだ。【機械器具小売業】
- ×国内旅行については、シルバーウィークの日並びが悪く去年と比べると厳しい。海外旅行は、ヨーロッパ方面が引き続きテロの影響で苦戦している。【生活関連サービス業】



データ出所：近畿経済産業局「百貨店・スーパー販売状況」